

2023 年度教育課程

(臨地実習等)

臨地実習

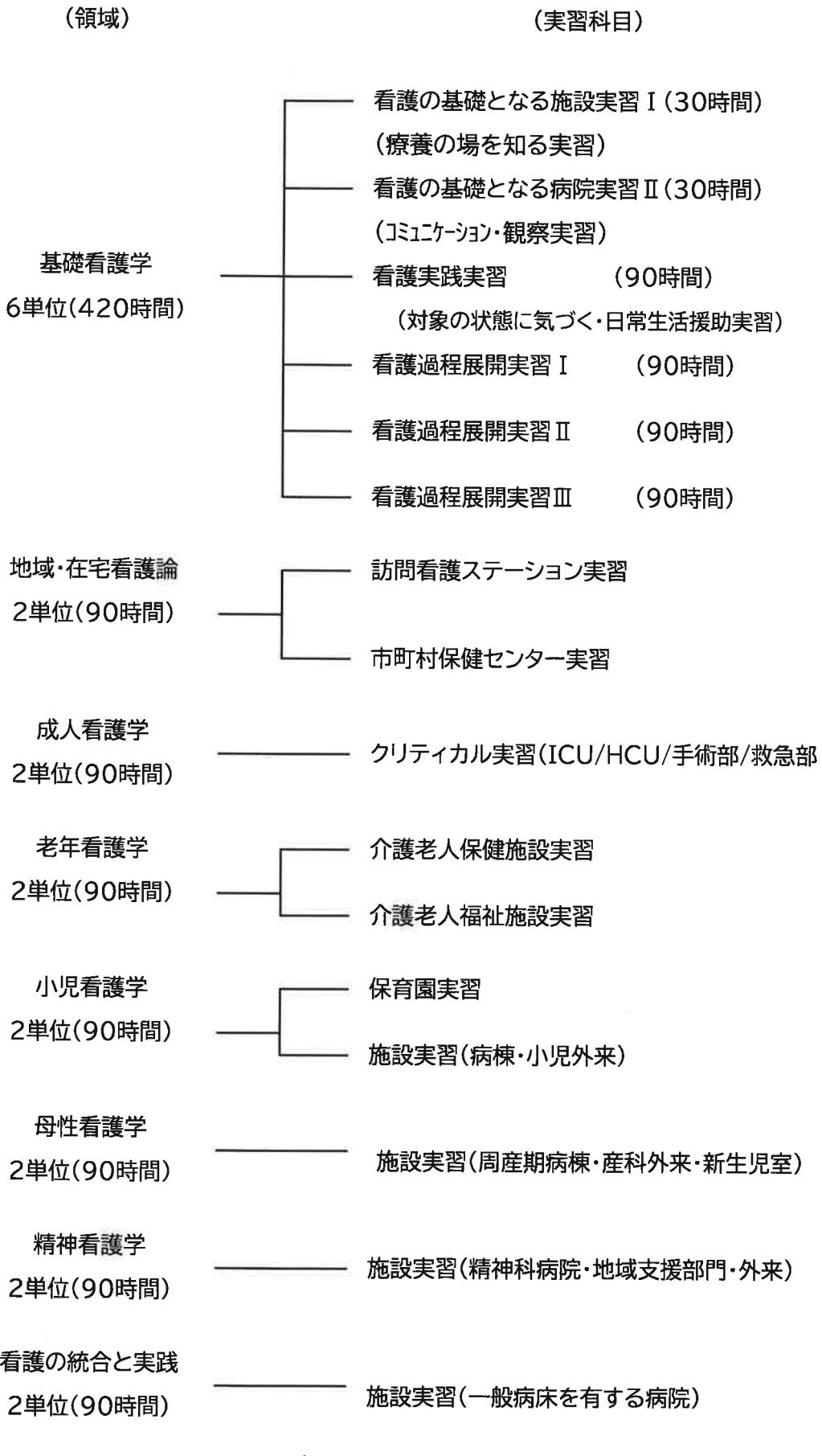
目的

対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 対象の健康上の問題を明確にし、必要な援助を計画、実施、評価できる能力を習得する。
- 2 対象と援助関係を形成できる基礎的能力を習得する。
- 3 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、チームメンバー や多（他）職種と協働できる能力を習得する。
- 4 看護体験を省察し、看護を追究する態度を身につける。

臨地実習 科目構造



【1年次】

〔1〕看護の基礎となる施設実習Ⅰ

【1単位 30時間】

目的

医療や看護活動の場を通して看護の役割を知り、看護に必要な学習内容（知識・技術・態度）を意識した今後の主体的学習活動への動機づけができる。

目標

- 1 療養生活を送る場としての、病院や病棟および病室の環境がわかる。
- 2 病棟で働く看護師の役割の概要がわかる。
- 3 看護学生として自覚と責任ある基本的行動がとれる。
(時間を守る、提出物の遅れや不備がない、忘れ物がない、適切な態度と身だしなみ)
- 4 報告、連絡、相談ができる。
- 5 自己の健康管理ができる。
- 6 看護師をめざす学習者としての抱負と自己の課題が述べられる。

方法

- 1 実習期間
(1)時 期：1年次 5月
(2)期 間：3日6時間
(3)時 間：30時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔2〕看護の基礎となる施設実習Ⅱ

【1単位 30時間】

目的

看護実践の基礎となるコミュニケーションや観察する力を身につけることができる。

目標

- 1 対象との関係性の構築や情報収集のための意図的なコミュニケーションがとれる。
- 2 対象の健康状態を把握するための基本情報を収集できる。
- 3 対象の健康状態に応じた観察ができる。
- 4 看護学生として自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 5 実習を通しての学びと自己の課題を明確にできる。

方法

- 1 実習期間
(1) 時 期：1年次 1月～2月
(2) 期 間：5日間
(3) 時 間：30時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

【2年次】

〔1〕看護実践実習

【2単位 90時間】

目的

医療機関に入院・加療を受けている対象の状態を理解し、日常生活行動の援助の必要性を判断し、必要な看護を実践できる。

目標

- 1 対象の状態に気づくことができる。
- 2 対象の状態に応じた日常生活援助が計画できる。
- 3 援助計画に基づいて看護技術を実践できる。
- 4 実施した援助内容と対象の反応を報告できる。
- 5 実施した援助を振り返り、次の援助に繋げることができる。
- 6 看護者としての関心を寄せてコミュニケーションがとれる。
- 7 看護学生として自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 8 看護師をめざす学習者としての学びと自己の課題を明確にできる。

方法

- 1 実習期間
 - (1) 時期: 2年次 7~8月
 - (2) 期間: 12日間
 - (3) 時間: 90時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔2〕看護過程展開実習Ⅰ

【2単位 90時間】

目的

対象に応じた看護過程を展開できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 対象のもつ健康上の問題を明確にするために必要な情報を収集できる。
- 2 収集した情報を分析、解釈し看護上の問題を明らかにできる。
- 3 定義・診断指標・関連因子と照合して看護診断を確定することができる。
- 4 看護診断に基づき、対象に応じた看護計画が立案できる。
- 5 看護計画に基づいて、対象の安全・安楽・自立を考慮して看護援助を実施できる。
- 6 看護過程における評価がわかる。
- 7 対象を尊重して関わり、援助関係が形成できる。
- 8 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 9 対象とのかかわりを通して、学んだことと自己の課題を表現できる。

方法

- 1 実習期間
 - (1) 時期: 2年次 11月~12月
 - (2) 期間: 12日間
 - (3) 時間: 90時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔3〕看護過程展開実習Ⅱ

【2単位 90時間】

目的

対象に応じた看護過程を展開できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 健康障害をもつ対象を総合的に理解できる。
- 2 対象のもつ健康上の問題を明確にするために必要な情報を収集できる。
- 3 収集した情報を分析、解釈し看護上の問題を明らかにできる。
- 4 定義・診断指標・関連因子と照合して看護診断を確定することができる。
- 5 対象の状態に応じた、日々の援助計画を立案することができる。
- 6 援助計画に沿って対象の安全・安楽・自立を考慮して看護援助を実施できる。
- 7 実施した看護援助を評価できる。
- 8 対象を尊重して関わり、援助関係が形成できる。
- 9 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 10 対象とのかかわりを通して、学んだことと自己の課題を表現できる。

方法

1 実習期間

- (1)時 期：2年次 1月
- (2)期 間：12 日間
- (3)時 間：90 時間

2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔4〕看護過程展開実習Ⅲ

【2単位 90時間】

目的

対象に応じた看護過程を展開できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 健康障害をもつ対象を総合的に理解できる。
- 2 対象のもつ健康上の問題を明確にするために必要な情報を収集できる。
- 3 収集した情報を分析、解釈し看護上の問題を明らかにできる。
- 4 定義・診断指標・関連因子と照合して看護診断を確定することができる。
- 5 看護診断に基づき、対象に応じた看護計画が立案できる。
- 6 看護計画に基づいて、対象の安全・安楽・自立を考慮して看護援助を実施できる。
- 7 看護過程における評価ができる。
- 8 対象を尊重して関わり、援助関係が形成できる。
- 9 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 10 対象とのかかわりを通して、学んだことと自己の課題を表現できる。

方法

1 実習期間

- (1)時 期：2年次 1月～2月
- (2)期 間：12 日間
- (3)時 間：90 時間

2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

【3年次】

〔1〕地域・在宅看護論実習

【2単位 90時間】

目的

地域で暮らすあらゆる人々とその家族を理解し、その人らしい暮らしを支える看護が実践できる基礎的能力を習得する。

目標

- 1 地域で生活する人を総合的に理解できる。
- 2 訪問看護師の役割と訪問看護の実際を理解できる。
- 3 地域包括ケアの目的を理解し、多職種他機関の連携や看護の役割が理解できる。
- 4 対象の思いを尊重し、援助関係を形成できる。
- 5 看護学生として、自覚と責任のある基本的行動がとれる。
- 6 実習体験を通して、自己の看護観を深めることができる。

方法

- 1 実習期間
 - (1)時 期：3年次 5月～11月
 - (2)期 間：12日間
 - (3)時 間：90時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔2〕成人看護学実習

【2単位 90時間】

目的

急性期・周術期の対象の特徴を理解し、看護を実践する基礎的能力を習得する。

目標

- 1 周術期にある対象の特徴、手術療法及び看護の実際が理解できる。
- 2 集中治療室における生命の危機的状況にある対象の特徴、各専門的な治療方法及び看護の実際が理解できる。
- 3 救急医療を必要とする対象の特徴と各専門的な治療方法及び看護の実際が理解できる。
- 4 急性期・周術期の場において、看護者として対象に关心を寄せ、対象や家族と関係を形成する方法が理解できる。
- 5 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 6 実習での体験を振り返り、実習の学びと自己の課題を明確にできる。

方法

- 1 実習期間
 - (1)時 期：3年次 4月～10月
 - (2)期 間：12日間
 - (3)時 間：90時間
- 2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔3〕老年看護学実習

【2単位 90時間】

目的

老年期にある対象の特徴を理解し、その対象の生活を支える看護を実践する基礎的能力を習得する。

目標

- 1 加齢現象や健康障害により施設入所している高齢者の特徴を理解できる。
- 2 対象の加齢現象や健康障害による日常生活に及ぼす影響と予測・予防看護の必要性を理解できる。
- 3 高齢者の生活の質を高める援助の実際を理解できる。
- 4 対象に関心を寄せ、思いを尊重した人間関係を形成できる。
- 5 高齢者の生活の場である施設の特徴を理解できる。
- 6 多職種チームにおける連携や看護の役割を理解できる。
- 7 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 8 実習体験を通して、自己の看護観を深めることができる。

方法

1 実習期間

(1)時 期：3年次 4月～11月

(2)期 間：12日間

(3)時 間：90時間

2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔4〕小児看護学実習

【2単位 90時間】

目的

小児期にある児とその家族の特性を理解し、成長・発達の促進および健康の保持増進をめざした看護を実践する基礎的能力を習得する。

目標

- 1 対象（小児とその家族）を理解し、発達段階および健康レベルに応じた援助の実際が理解できる。
- 2 対象の看護上の問題を明確にし、健康の回復・維持・増進および成長・発達を促すための援助の実際が理解できる。
- 3 小児保健医療福祉チームにおける看護の役割が理解できる。
- 4 健全な小児観を養うとともに、小児看護に対する関心を深めることができる。

方法

1 実習期間

(1)時 期：3年次 4月～11月

(2)期 間：12日間

(3)時 間：90時間

2 実習内容・進め方 : 実習要領参照

〔5〕母性看護学実習

【2単位 90時間】

目的

妊娠・分娩・産褥期、および新生児期にある対象に応じた看護を実践する基礎的能力を習得する。

目標

- 1 妊娠・分娩・産褥期、および新生児期にある対象を総合的に理解できる。
- 2 妊娠・分娩・産褥期、および新生児期にある対象の状態に応じた援助が理解できる。
- 3 対象の思いを尊重し、援助関係を形成できる。
- 4 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
- 5 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 6 実習体験を通して生命（いのち）に対する考え方、自己の看護観や母性観・父性観を深めることができる。

方法

1 実習期間

(1)時 期：3年次 4月～11月

(2)期 間：12日間

(3)時 間：90時間

2 実習内容・進め方： 実習要領参照

〔6〕精神看護学実習

【2単位 90時間】

目的

精神に障害をもつ人とその家族の特徴を理解し、看護を実践する基礎的能力を習得する。

目標

- 1 精神看護における療養環境が理解できる。
- 2 精神に障害をもつ対象とその家族の特徴が理解できる。
- 3 こころの健康の保持・増進及び回復のための看護が理解できる。
- 4 援助関係を振り返り、自己理解を深めることができる。
- 5 対象を取り巻く精神保健・医療・福祉チームの連携と看護師の役割が理解できる。
- 6 看護学生として自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 7 実習体験を通して自己の看護観を深めるとともに精神看護についての自己の考えを明確にできる。

方法

1 実習期間

(1)時 期：3年次 4月～10月

(2)期 間：12日間

(3)時 間：90時間

2 実習内容・進め方： 実習要領参照

〔7〕看護の統合と実践実習

【2単位 90時間】

目的

看護チームの一員として看護実践を体験することにより、既習の知識・技術・態度を統合し、質の高い看護実践能力と、看護師としての自覚と責任を養う。

目標

- 1 複数の患者を受け持つ看護や特定の状況に応じた看護を体験し、必要な援助の判断や優先順位の考え方及び時間管理の重要性を理解できる。
- 2 病院・病棟の看護管理の実際について理解できる。
- 3 看護チームの一員としての役割について理解できる。
- 4 看護学生として、自覚と責任ある基本的行動がとれる。
- 5 自己の看護観を見つめ、職業人としての課題を明確にできる。

方法

1 実習期間

(1)時 期：3年次 9月～11月

(2)期 間：12日間

(3)時 間：90時間

2 実習内容・進め方： 実習要領参照

看護技術 教授内容マトリクス

		基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
日常生活援助技術 I～III	環境	環境調整・整備 リターン交換	事故予防のための生活空間の工夫	手術後の環境整備	事故予防のための環境整備 転倒防止のための環境整備	事故予防のための環境整備	新生児の保育環境 感染防止・危険防止	生活空間の工 環境調整の支	環境調整・整備
	清潔	全身清拭 口腔ケア 足浴・手浴 洗髪 陰部洗浄	寝たきり状態にある対象の洗髪・陰部洗浄	意識障害のある対象の口腔ケア	皮膚搔痒症のスキンケア 義歯の取扱い 機械浴の介助	歯磨き指導 乳幼児の爪きり 入浴・シャワー浴の介助	梅毒の外陰部の清潔 沐浴 膣処置 乳房の手入れ	身だしなみを整える援助	対象に応じた全身清拭
	衣生活	衣類選択 寝衣交換	寝たきり状態にある対象の更衣	麻痺のある対象の寝衣交換	麻痺のある対象の寝衣交換	乳幼児の更衣	新生児の衣服 新生児の更衣 妊娠婦の衣服・腹帯(着帯)	場に応じた衣服の選択・更衣	対象に応じた衣類選択・交換
	排泄	便器・尿器の排泄の介助 腹部マッサージ おむつ交換 浣腸・摘便 導尿	膀胱留置カーテル管理 自己導尿 浣腸・摘便	人工肛門の管理 人工肛門造設部の管理・パサ交換 膀胱留置カーテル管理 自己導尿	おむつ交換 尿失禁の看護	排泄の介助 トイレットトレーニング 浣腸	悪露交換(外陰部消毒) 骨盤底筋トレーニング 子宮底の輪状マッサージ	排便コントロールの援助	対象に応じた排泄の介助
	移動姿勢	体位保持 良肢位の保持 車椅子への移乗 車椅子の移送 体位変換 トレッチャーの移乗 移送 廃用症候群予	寝たきり状態にある対象の体位変換	牽引中・ギアス装着の看護 機能訓練 関節可動域運動 手術後の早期離床	移動介助(杖・車いす)	移動(抱っこ) 成長発達にあわせた遊び	妊娠婦体操 産褥体操 インアントウォーマーの取扱い	行動低下のある対象の援助 活動療法 生活技能訓練	対象に応じた体位変換、移動介助(杖、車いす)
	睡眠休息	リラクゼーション			睡眠障害のある対象の援助		新生児の寝かせ方 妊娠婦の休息	睡眠障害のある対象の援助	
	食	食事介助 経管栄養法 経静脈栄養法 中心静脈栄養	胃瘻・腸瘻の管理 経管栄養法	嚥下障害のある対象の食事介助 胃管管理	嚥下障害のある対象の食事介助 麻痺のある対象の食事介助	離乳食摂取 おやつ摂取の介助	調乳・授乳方法 乳房マッサージ 搾乳	食行動に問題がある対象の援助	
	スクリーニング・技術	身体計測 バイタルサイン測定 フジカルイグザミネーションの基本 フジカルアセメントの方法 経皮的動脈血酸素飽和度の測定	呼吸器系のフィジカルアセメント	意識レベルの測定 MMT ROM フジカルイグザミネーション	高齢者の生活機能のアセメント フジカルイグザミネーション	乳幼児の体温測定・脈拍測定・呼吸測定	新生児のバイタルサイン測定 新生児の聴覚スクリーニング 新生児のタンデムスクリーニング		複数の対象のバイタルサインの測定(優先順位の判断・決定)
看護の基本となる技術 I～V	観察記録報告	観察・記録・報告の基本 経時的な記録の記載方法	関連職種との連携のための記録				母子健康手帳 出生届	プロセレコード 行動観察法 視覚的観察、面接法、参加観察	観察・記録・報告の基本 経時的な記録の記載方法
	安全安楽	医療事故防止 温罨法 冷罨法	在宅における感染予防 在宅看護におけるリスクマネジメント	患者取り違え防止	事故防止の工 視力低下のある対象の安全の援助	小児の年齢と理解度に応じた抑制と環境整備 ベッド・柵の取り扱い 転倒転落防止	新生児コットの取り扱い 盗難防止対策	保護室の使用方法 代理行為 鍵の管理 抑制	医療事故防止 安全管理の技術 針刺事故防止対策 安全確保の技術
	看護過程	看護過程の基礎(理論・実際)							複数患者の看護実践 各領域の看護過程の特徴 割込状況の対処 優先順位の判断
	コミュニケーション	コミュニケーションの基本 ロールプレイング	療養者と家族との面接法 他職種との連携・協働	筆談・五十音表	難聴、認知症、言語障害のある対象とのコミュニケーション	対象年齢に応じたほめ方しかり方 子ども・母親・家族とのコミュニケーション	母子・家族とのコミュニケーション プロセレコード	対象・場・状況に応じたコミュニケーション 他職種との連携と協働	
	指導技術	指導の基本 指導のプロセス 対象(個人・集団)場と内容、時期と方法 ロールプレイング	訪問技術	健康新レベルに応じた指導 慢性疾患の患者指導	老年期の特徴をふまえた指導 リハビリテーション 家族に対する指導	小児の理解力を合わせた指導 家族に対する指導	沐浴指導 退院指導 調乳指導 結婚・家族計画に関する指導	生活指導 服薬指導	安全管理の技術 リスクマネジメント

看護技術 教授内容マトリクス

		基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
臨床判断		対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	療養の場における気づき 気づきに基づく実践	健康障害時の対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	加齢変化による対象の状態の気づき 気づきに基づく実践	成長発達に基づく気づき 気づきに基づく実践	産褥日数や日齢による生理的变化の気づき 気づきに基づく実践	精神症状による日常生活の変化の気づき 気づきに基づく実践	複数の対象の状態の気づき 気づきに基づく対象に合わせた実践
健康状態別看護Ⅰ～Ⅲ	体温	電法 マッサージ 深部静脈血栓予防	体温管理(高体温・低体温の予防)	手術後の体温管理	低体温の予防	乳幼児の体温管理	新生児の体温管理	保温	対象に応じたバイタルサインの測定
	呼吸循環	酸素療法 酸素ボンの操作 吸入 口腔内吸引 鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレーニング	循環器のフィジカルセミナ 在宅酸素療法 肺理学療法 吸引・肺痰ケア 非侵襲的換気	心電図 CVP測定 リンパ管マッサージ 排痰ケア 人工呼吸器 胸腔ドレナージ 呼吸訓練	誤嚥性肺炎・窒息の予防ケア	乳幼児の呼吸観察 乳幼児蘇生法	新生児の呼吸観察 新生児蘇生法アルゴリズム	飲水管理	救急蘇生法(気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ)
	診察検査	経皮的動脈血酸素飽和度の測定 心電図 検体検査 静脈血採血 ドレンカテーテルの管理 胃洗浄 造影 内視鏡検査	気管切開孔からの吸引	肺機能検査 心臓カテーテル生検 内視鏡手術 腹腔鏡下手術と術後の管理 輸液ポンプの管 フットポンプの管	臨死の徵候と看取りの看護 死後の処置	吸入(エアライザ) 小児の採尿 小児の計測 プロペレーション ディストラクション 小児の診療介助 小児の検査・処置介助	妊娠の診察(腹痛・子宮底測定・レッドゾーン触診法) 新生児の計測・観察 黄疸の測定 アプローチコアの採点 胎盤計測 尿検査・尿比重	心理テスト 脳波	災害時の診療とその補助 トリアージ
	処置	褥創処置 胸腔・腹腔穿刺 骨髄穿刺 腰椎穿刺 死後の処置	褥瘡管理	簡易血糖測定 内視鏡検査 褥創予防	褥創処置	採尿・腰椎穿刺・骨髓穿刺	光線療法	電気ショック療法	包帯法 止血法 創傷処置
臨床微生物	感染予防	衛生学的手洗い スタンダードプロセション PPEの脱着 無菌操作 滅菌物の取扱	療養者の感染防止(リウタニメント) スタンダードプロセション PPEの脱着	感染予防 衛生学的手洗い スタンダードプロセション PPEの脱着	高齢者の免疫力と感染予防 衛生学的手洗い スタンダードプロセション PPEの脱着	小児の感染防止 予防接種 受動免疫と能動免疫	新生児の感染防止		院内感染予防対災害時の感染予防
看護と薬理	与薬	筋肉注射 皮下注射 皮内注射 点滴静脈内注射の管理 輸液の管理 輸液ポンプの管 直腸内与薬の挿入 経皮外用薬	薬物自己管理の援助 薬物療法(麻薬の取り扱い)	イブリンの自己管 点眼 点鼻 輸液ポンプの管 リビングポンプの管理	高齢者の経口与薬 高齢者の輸液管理	小児の経口与薬 小児の点滴静脈内注射の管理	新生児の点眼 新生児の経口与薬(K2シロップ)	薬物自己管理の援助 服薬管理	点滴静脈内注射の管理 輸液の管理 輸液ポンプの管

1年次 使用テキスト

区分	授業科目	出版社	テキスト
基礎分野 <small>科学的思考の基盤 人間と社会、生活の理解</small>	論理学	東信堂	作文の論理
	情報科学総論	医学書院	系統看護学講座 別巻 看護情報学
	看護情報学	医学書院	系統看護学講座 別巻 看護情報学
	看護に活かす数学化学	照林社	やりなおし生物/化学
		照林社	やりなおし数学/物理
	心理学	医学書院	系統看護学講座 基礎 心理学
	社会学		なし
	教育学	医学書院	系統看護学講座 基礎 教育学
	倫理学 I	医学書院	医療概論
	人間関係論 I・II	医学書院	系統看護学講座 基礎 人間関係論
専門基礎分野 <small>疾病的成り立ちと回復の促進</small>	日本医療企画		看護師のためのアドラー心理学
	日本医療企画		看護師のためのアドラー流子育て・自分育て
	芸術		なし
	解剖生理学 I・II・III・IV・V	医学書院 医学映像教育センター	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 生体のしくみ 標準ナット
	病理学	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学
	治療論	医学書院 医学書院 医学書院 ゲーリルト社	系統看護学講座 別巻 臨床検査 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 新体系看護学 別巻 治療法概説
	疾 治 療 論 I・II・III・IV	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学 系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器 系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器 系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器 系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器 系統看護学講座 専門 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経 系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 運動器 系統看護学講座 専門 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 系統看護学講座 専門 成人看護学⑮ 歯・口腔
	臨床微生物	ヌーケル出版	ビジアル微生物学
	栄養と代謝	医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能② 生化学 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学
専門分野 <small>健康支援と社会保障制度</small>	看護と薬理	医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
	社会福祉	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉
	関係法規 I	医学書院 メディックデイア 新日本法規 厚生統計協会	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 公衆衛生がみえる 看護六法 国民衛生の動向
	公衆衛生学 I	医学書院 厚生統計協会	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 国民衛生の動向
	看護学概論	医学書院 日本看護協会出版会 医学書院 現代社	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論 看護の基本となるもの ゲージニア・ハンダーリン著 看護の人間発達学 看護覚え書き 改訛 フレンス・ナインガーリー
	看護の基本となる技術 I・II	医学書院 メディックデイア	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術 I 看護がみえる③ フジカルアセメント
	看護の基本となる技術IV	医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
	日常生活援助技術 I・II・III	医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論 系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術 I 看護コミュニケーション
	臨床判断	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 系統看護学講座 専門 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学 系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器 系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器 系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器 症状別 看護過程 第4版
	看護の基礎となる地域演習 I	医学書院	疾患別 看護過程 第3版
専門分野 <small>地域・在宅看護論</small>	看護の基礎となる地域演習 II	医学書院	事例から学ぶ地域・在宅看護論
	地域で暮らす人々と看護	医学書院	事例から学ぶ地域・在宅看護論
	地域・在宅看護論概論	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤
	成人看護学	医学書院 医学書院 メディックデイア	系統看護学講座 専門 成人看護学① 成人看護学総論 看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる
	老年看護学	医学書院 医学書院 メディックデイア	系統看護学講座 専門 老年看護学 看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる
	小児看護学	医学書院 医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 看護のための人間発達学 公衆衛生がみえる
	母性看護学	医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論 系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論
	精神看護学	医学書院 医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学① 精神看護の基礎 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

2年次 使用テキスト

区分	授業科目	出版社	テキスト
基礎分野	運動生理学		なし
	英語	KINSEIDO	Check-Up ! Basic English for Nursing
専門基礎分野	疾病治療論Ⅴ	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑧ 腎・泌尿器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑨ 女性生殖器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 皮膚
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑪ 眼
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑫ 耳鼻咽喉
	看護栄養学	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能③ 栄養学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 栄養事療法
	臨床薬理	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進② 薬理学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学
		医学書院	看護学生のための薬理学ワーカーワーク
基礎看護学	看護と倫理	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論
		医学書院	系統看護学講座 別巻 看護倫理
	看護の基本となる技術Ⅲ-1・2	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		ヌーベルヒロカワ	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(第3版)
		照林社	実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド(第2版)
		医学書院	J-ドン看護診断マニュアル
	看護の基本となる技術Ⅴ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学① 看護学概論
		医学書院	看護のための教育学
	健 康 状 態 別 看 護 I	医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論
		メイイ出版	周術期看護
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学① 成人看護学総論
		医学書院	系統看護学講座 別巻 緓和ケア
		メイイ出版	緩和ケア
		医学書院	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護
	健 康 状 態 別 看 護 II	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
		医学書院	系統看護学講座 別巻 臨床検査
		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
	健 康 状 態 別 看 護 III	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
専門分野	地域・在宅看護論	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践
		学研	よくわかる在宅看護
		メイイックメイア	公衆衛生が見える
		厚生統計協会	国民衛生の動向
	成人看護学援助論I	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学④ 血液・造血器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑦ 脳・神経
	成人看護学援助論II	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学② 呼吸器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学③ 循環器
	成人看護学援助論III	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑥ 内分泌・代謝
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学① アレギー・膠原病・感染症
成人看護学	成人看護学援助論IV	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑤ 消化器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 運動器
	成人看護学援助論V	医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑧ 腎・泌尿器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑨ 女性生殖器
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑩ 皮膚
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑪ 眼
		医学書院	系統看護学講座 専門 成人看護学⑫ 耳鼻・咽喉
	成人看護学援助論I～V	学研	NEW看護過程に沿った対症看護
老年	老年看護学援助論I・II・III	医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護学
		医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論
小児	小児看護学援助論I	医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論
	小児看護学援助論II・III	医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学② 小児臨床看護各論
母性	母性看護学援助論I・II	医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論
	精神	医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学① 精神看護の基礎
		医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学② 精神看護の展開
		医学書院	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉

3年次 使用テキスト

区分	授業科目	出版社	テキスト
基礎	倫理学Ⅱ		なし
	リラクゼーション		なし
専門基礎	地域包括時代の社会福祉	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉
	保健医療論	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度① 総合医療論
	関係法規Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令
		メイツクメイア	公衆衛生が見える
		新日本法規	看護六法
		厚生統計協会	国民衛生の動向
	公衆衛生学Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生
		メイツクメイア	公衆衛生が見える
地域・在宅	地域・在宅看護論援助論Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践
		学研	よくわかる在宅看護
母性	母性看護学援助論Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論
		医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学② 母性看護学各論
専門分野	看護の統合と実践Ⅰ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		メイツクメイア	看護がみえる④ 看護過程の展開
		医学書院	系統看護学講座 専門 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論
		医学書院	系統看護学講座 専門 母性看護学① 母性看護学概論
		医学書院	系統看護学講座 専門 老年看護学
		医学書院	系統看護学講座 専門 精神看護学② 精神看護の展開
	看護の統合と実践Ⅱ	医学書院	系統看護学講座 専門 看護学概論
		医学書院	系統看護学講座 別巻 看護研究
	看護の統合と実践Ⅲ	医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践① 看護管理
		ホーリー・社	看護マネジメント
		日本看護協会出版会	学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門
		医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践② 医療安全
	看護の統合と実践Ⅳ	メイツクメイア	看護の統合と実践② 医療安全
		医学書院	系統看護学講座 専門 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 救急看護学
		医学書院	系統看護学講座 別巻 クライカクア看護学
	看護の統合と実践Ⅴ	医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ
		医学書院	系統看護学講座 専門 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ
		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術

看護技術到達度表

1. 看護技術到達度とは、学生が卒業までに経験し到達するべき技術レベルである。
2. 学内演習および実習、双方の技術到達度を示すことで、3年間の看護基礎教育においての個人の技術習得状況がわかる。
3. 各教育内容・授業科目との関連で、看護技術項目と技術の種類を一覧に示し、到達レベルを<演習>2段階<実習>3段階に設定した。
4. 「技術の種類」で、網掛けとなっているものは、学校が独自に追加したものである。

卒業時の到達レベル		
演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。
	II	モデル人形もしくは学生間で指導のもとで実施できる。
実習	I	単独で実施できる。
	II	指導のもとで実施できる。
	III	実施が困難であれば見学する。（*いざれも実習中に機会が得られれば）

5. 技術到達度表の記載方法

- (1) 各看護学実習で、それぞれの項目の到達度を目指し、看護技術を実施または見学する。
- (2) 各看護学実習中に実施または見学した項目に、演習I～II・実習I～IIIのレベルを記入する。
- (3) 各看護学実習の予定表に従い、臨地実習指導者と担当教員に確認を受ける。実習最終日には、確認印を受ける。
- (4) 実習終了後は自己管理する。

学籍番号 _____ 氏名 _____

茨城県結城看護専門学校

項目	技術の種類	卒業時の到達度（演習）	卒業時の到達度（実習）	各看護学実習								最終到達度	
				基礎施設Ⅰ	基礎施設Ⅱ	看護実践	看護過程展開Ⅰ	看護過程展開Ⅱ	看護過程展開Ⅲ	地域・在宅	成人	老年	
1. 環境調節技術	患者にとって快適な病床環境をつくることができる。 基本的なバッドメイキングができる。 臥床患者のリネン交換ができる。	I I I	I I II										
2. 食事の援助技術	患者の状態に合わせて食事介助ができる。(嚥下障害のある患者を除く) 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる。 経鼻経管栄養法を受けている患者の観察ができる。 患者の栄養状態をアセスメントできる。 患者の疾患に応じた食事指導ができる。 (モデル人形での)経鼻胃チューブの挿入ができる。 経管栄養法による流動食の注入ができる。	I I I II II II I I	I I I II II II III III										
3. 排泄援助技術	自然な排便を促すための援助ができる。 自然な排尿を促すための援助ができる。 排泄援助(床上・ポータブルトイレ・おむつ等)ができる。 患者のオムツ交換ができる。 (モデル人形に)導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる。 膀胱留置カテーテルの管理ができる。 (モデル人形に)洗腸ができる。 基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる。 ストーマ管理の留意点がわかる。	II II I I II I III III III	II II II II II III III III III										
4. 活動・休息援助技術	歩行・移動介助ができる。 移乗介助ができる。 車椅子での移送ができる。 ストレッチャー移送ができる。 臥症患者の体位変換・保持ができる。 自動・他動運動の援助ができる。 補助用具を用いて、安定した体位を保つことができる。 ボディメカニクスの原理がわかり、実践できる。 成長発達に合わせた遊びの工夫ができる。	I I I I I I II I I	I II I II I I II I I										

項目	技術の種類	卒業時の到達度（演習）	卒業時の到達度（実習）	各看護学実習								最終到達度	
				基礎施設Ⅰ	基礎施設Ⅱ	看護実践	看護過程展開Ⅰ	看護過程展開Ⅱ	看護過程展開Ⅲ	地域・在宅	成人	老年	
5. 清潔・衣生活援助技術	整容の援助ができる。 点滴・ドレン等を留置していない患者の寝衣交換ができる。 点滴・ドレン等を留置している患者の寝衣交換ができる。	I I I	I I II										
	入浴・シャワー浴の介助ができる。 臥床患者の清拭ができる。 陰部の保清ができる。 臥床患者の洗髪ができる。 洗髪台での洗髪の援助ができる。 患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる。 意識障害のない患者の口腔ケアができる。 新生児の沐浴・清拭ができる。 新生児の衣類の着脱、おむつの交換ができる。	I I I I I I I III II	II II II II II I I III II										
6. 呼吸・循環を整える技術	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる。 患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる。 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる。 酸素吸入療法の実施ができる。(カニューレ・マスク) ネブライザーを用いた気道内加湿ができる。 (モデル人形で)口腔内・鼻腔内吸引が実施できる。 (モデル人形で)気管内吸引ができる。 (モデル人形で)体位ドレナージを実施できる。	I I I I I I I III	I II I II I III II III										
7. 創傷管理技術	褥瘡予防ケアが実施できる。 患者の創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)ができる。 創傷処置のための無菌操作ができる。(ドレーン類の挿入部の処置も含む) ドレーン類を挿入している患者の観察ができる。	II II II II	II II III II										
8. 与薬の技術	経口薬(パックル錠・内服薬・舌下錠)投与時の観察ができる。 経皮・外用薬投与時の観察ができる。 点眼薬投与時の観察ができる。 座薬投与時の観察ができる。 (モデル人形で)皮下注射が実施できる。 (モデル人形で)筋肉内注射が実施できる。	II I II II II II	II II III II III III										

領域別 治療・検査・看護 一覧表

基礎・成人・老年・統合看護学実習				基礎・成人・老年・統合看護学実習				基礎・成人・老年・統合看護学実習				
	呼吸器系	見学日	指導者 サイン		脳神経系	見学日	指導者 サイン			消化器系	見学日	指導者 サイン
検査項目	胸腔穿刺			検査項目	脳波検査			検査項目	胃透視			
	気管支鏡				腰椎穿刺				上部消化管内視鏡検査			
	呼吸機能検査				脳血管造影				胆道・胆嚢造影			
	高圧酸素療法				長谷川式スケール				逆行性肺胆管造影			
									注腸造影			
									下部消化管内視鏡検査			
									肝生検			
検査項目	皮膚・感覚器系	見学日	指導者 サイン	検査項目	循環器系・血液系	見学日	指導者 サイン	検査項目	腹腔穿刺			
	眼圧測定				心エコー検査				腹部血管造影			
	眼底検査				心臓カテーテル検査				腹部エコー検査			
					骨髄穿刺							
検査項目	運動器系	見学日	指導者 サイン	検査項目	腎・泌尿器系	見学日	指導者 サイン	検査項目	その他	見学日	指導者 サイン	
	関節可動域測定				尿道造影				MRI(部位)			
	徒手筋力テスト				逆行性腎孟造影				CT(部位)			
	脊髄造影				腎生検				X線撮影(部位)			
	椎間板造影											

領域別 治療・検査・看護 一覧表

精神看護学実習				小児看護学実習				地域・在宅看護論実習			
	項目	見学日	指導者 サイン		項目	見学日	指導者 サイン		項目	見学日	指導者 サイン
治療	SST(社会生活機能訓練)			検査	心エコー			治療	在宅酸素療法(HOT)		
	OT(作業療法)				心電図				気管切開の管理		
	精神療法				腰椎穿刺				在宅中心静脈栄養法(HPN)		
					X線撮影(部位)				在宅人工呼吸療法(HMV)		
									胃ろうの管理		
看護	隔離時の看護			母性看護学実習				在宅療養への支援	サービス担当者会議		
	拘束時の看護			母子 援助 技術	項目	見学日	指導者 サイン		退院調整・支援カンファレンス		
	暴力・離院時の対応				分娩				グループホーム見学		
					早期母子接觸						
					光線療法						
					初回授乳指導						
					沐浴指導						
					超音波診断						
					出生直後の新生児の観察						